

萃

大阪発達総合療育センター機関紙
第39号 2021年冬

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

INDEX

・ごあいさつ	1P	・リレーエッセイ	4P
・特集に寄せて	1P	・院内学会・清水賞	4P
・センターの歴史2	2P	・職員研修実績状況	4P
・コロナと教育	3P	・寄付金と寄付物品	4P
・新しいチャレンジ	3P		

■ごあいさつ

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

鈴木 恒彦



昨年末の院内学会の発表でも、現場の新型コロナウイルス感染予防関連の発表があり、残念ですが、今やCOVID-19の話題が時代の挨拶として紙上を賑わしている昨今です。竹本副院長による当施設での新型コロナウイルス感染予防の対応策は、まさに時期を得た内容です。前号に続く法人の歴史の話は、南大阪療育園の時代に入りました。梶浦局長を中心として前年から進められていた、介護技術を当センターで学ぶベトナムからの技能実習生の受け入れがまもなく始まります。受け入れ部署の療育科宮崎科長が、事前に講義をされたご苦労がしのばれます。この分野の外国人受け入れは、我が国には避けられない大切な事業です。そのためには、異なる文化や習慣も受け入れられるような環境を準備する覚悟が必要です。折しも、東京五輪組織委員会での女性差別の発言が問題化されています。私どもの職場内でも異なる意見を無意識に排除していないか、時々立ち止まってみましょう。

■特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



コロナの影が濃い日々が続いています。当法人の活動にも様々な影響が出てきていることは皆さん実感されているのではないのでしょうか。今回の特集でもコロナ下における療育の現状と諸問題が概説されています。昨年は予定していた50周年の記念行事も軒並み中止となり、今年に繰り延べて開催できるかもまだ定かではありません。梶浦局長が連載されている「愛徳福祉会の歴史」の最終章にコロナに立ち向かった日々がつけ加えられ、余裕を持って過去の物語として読むことができる日が訪れるのを楽しみにしています。もうひとつの宮崎科長の記事を見ますとコロナの影響でベトナム実習生の来日も少し遅れるようですが、彼女らが前向きな気持ちを失わないように暖かく迎え入れたいと思います。これらの特集に加えて本号では昨年末に行われた院内学会の受賞結果が掲載されています。学会もコロナの影響でいくつかの会場に分散して行われましたが、例年と同様にそれぞれの発表の熱意が伝わるよいリモート学会でした。こうして見ますとコロナに関連しない記事はほとんどありませんね。ひとりひとりが感染しないように注意しながら生活することが一番大切です。よろしくお願いたします。



Vol.1では聖母整肢園設立からあさしお園・ゆうなぎ園設立までをお話しました。

今回は運営法人として社会福祉法人愛徳福祉会の設立、そして愛徳姉妹会からの事業継承に関するお話です。

1970年開設以来着実に実績を重ねていき、全国的にも脳性麻痺児の早期発見、早期治療が広がり始めまた地域の養護学校の新設など、社会意識の変革と社会資源の増加があり、障害児施設を取り巻く環境は益々発展の機運であり、施設運営にとっては追い風となっているところで、運営法人である愛徳姉妹会は思い切った決断を行いました。それは聖母整肢園とあさしお園、ゆうなぎ園の運営から退くということでありました

1980年5月には大阪市に相談にいき、当初は大阪市に事業譲渡を持ちかけています。しかし大阪市からは事業継承は出来ない旨の返事を受け、同時に新たな法人を設立してそちらに業務移管することが良いのではとアドバイスを受けています。その結果、同年10月の理事会にて法人分離について可決が為されました。

1981年6月には新法人の役員が任命され、同年7月に行われた新法人「愛徳福祉会」の設立発起人会にて議長を務められた梶浦医師が初代理事長に就任することが可決されました。

1982年3月17日に厚生大臣から認可を受け、同年4月1日設立登記完了。運営開始となりました。実に2年がかりでの移管作業でした。

では何故愛徳姉妹会は新法人を設立し業務移管を決定するに至ったのかを知る材料として当時発表された「愛徳福祉会設立趣意書」によると「愛徳姉妹会の母体である宗教法人の日本管区役員会において、障害児施設の経営には特に高度の専門知識と優れた経営手腕を必要とするとの認識から今後は宗教法人とは関係のない強力な社会福祉法人を設立して経営を担当してもらい事業の発展を図ることが最善であるとの意見が固かった次第である。」と記されています。

つまり今後益々の発展を考えるならば、高度な医療的な知識が必要となるため、医療を背景にした法人が運営をするのがベストであると考えられたと思われます。そのためには大阪大学の協力が必要不可欠と考え、当時大阪大学医学部教授であった小野整形外科教授に何度も相談に訪問された記録が記されています。

1980年11月17日の訪問時には新法人設立後の運営についても大阪大学がバックアップする旨の約束を取り



付けたと記されています。

新しい施設の名称は「南大阪療育園」となり、「聖母整肢園」の12年の歴史に幕が下ろされたと同時にその後、長らく「南大阪療育園」の時代が続くことになります。

その後の愛徳姉妹会との関係は、現在も継続しています。一つは現在の大阪発達総合療育センターの建物がある土地は無償で使用させて頂いています。また法人理事にも必ず1名就任頂いて常に内側からも法人の運営を見守って頂いています。そういった愛徳姉妹会のご厚意にお答えするためにも、当時の法人分離がご英断であったということを証明すること。つまり、今後も障害児者医療・療育を発展させ障害のある方々への支援を充実させることが最高の恩返しになると思います。

余談ですが、当初新法人の理事長には実は別の医師の先生が就任する予定でしたが、直前に本人から辞退の申し出があり、最終的に前出の小野整形外科教授の一存で梶浦医師が理事長を拝命することになりました。

また当初の施設名称は「大阪こども療育センター」となる予定だったことも最後に付け加えておきます。

(次号へ続く)

コロナと療育

新型コロナウイルス感染症が蔓延してきました。2020年12月4日から大阪府は独自基準で定めた「大阪モデル」が赤信号となりました。当センター内部でも至るところから周辺での発症の報告があります。ご利用者のみなさまにも多くの制限やご不便をおかけしていることと思います。この場をお借りしまして、ご協力にこころより感謝申し上げます。

コロナ禍での私たち施設側の対応について、一部ご紹介させていただきます。フェニックス入所者の面会と外出については制限のうえ実施していましたが、緊急事態宣言以後は中止にさせていただきました。新たな取り組みとしてラインによるリモート面会を開始しています。療育活動では、大きなレクリエーション行事は中止せざるを得ず、なるべく場所を分散して密を避けて、制作活動を中心に実施しています。外出の機会が減りストレスが増加していないか、ソーシャルディスタンスを保つ影響で五感へ働きかける機会が減っていないか、常に気を配っています。

今後施設内発生（職員・利用者）があった際には、速やかな濃厚接触者のわり出しと自宅待機の指示、および適切な範囲での迅速なPCR検査の実施が施設内クラスター防止の鍵と

南大阪小児リハビリテーション病院 副院長 竹本 潔

なります。当施設では医師会を通じて、速やかに外部検査会社でPCR検査が実施できる体制を整えています。また、万一施設内で経過を診なければならぬための、陰圧病室の設置工事を行いました。



コロナ禍真っ只中の私たちですが、

- ・施設内および個人の感染防御対策は確実に実施する。
- ・そのうえで専門医療、リハビリテーション、ショートステイ、通園・通所、訪問診療・看護など必要な医療・福祉支援は継続する。これは米国小児科学会も示しています。
- ・施設内発生時の対応準備をしておく。
- ・長期戦が予想されます。入所者とそのご家族、および職員のメンタルヘルスに十分気を配り、適切に対応する。

以上4つをしっかりと実行してまいりたいと思いますので、引き続きご理解、ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

新しいチャレンジ ～技能実習生について～

療育部 療育科 科長 宮崎 俊也

2020年冬の機関紙「葦」でお伝えさせていただいた、ベトナム人技能実習生受入れについての続報です。

昨年12月15日～12月25日でベトナム・ハノイのホアンロン日本語学校で行っているAPS介護スキルラボの生徒さん達に「障がいについて」の授業を療育部 山口科長と宮崎で行いました。当初の予定では現地に行き、生徒達と顔を合わせて「障がい」について伝える予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、訪越することが出来ず日本とベトナム間をインターネットで繋ぎWEB授業という形での授業となりました。

授業を行うにあたって、どのようにしたら伝わるのか？を考え、使用する資料や内容構成を何度も練り直し開始前から悪戦苦闘でした。授業を開始してからも慣れないWEB授業と外国人への説明の為、こちらが意図したことが伝わらない事もありましたが、生徒達が理解し一生懸命に日本語で応えてくれたときは、これ以上ない充実感でした。

彼女達が、どこまで言葉を理解出来ているかわかりませんが、私が伝えたかったことは伝わ

っていると信じています。

そんな彼女達は、3月に入国予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の国内感染状況が深刻化している事により、外国人の日本への入国が全面的に制限されました。その為、日本への入国が少し遅れてしまう可能性があります。彼女達は日本での実習生活を楽しみにしています。来日した際には、皆さま、どうぞ宜しくお願い致します！

最後に授業として必要な場所・機器をお借りさせていただいた愛和会、大阪APSコンソーシアムの関係者の皆様ありがとうございました。また、今回このような貴重な経験をさせていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。



ロンさん

当センターで技能実習を予定している2人

フォンさん





リハビリテーション部 PT 木村 智香

小さな頃から動物が大好きで、今は3匹の犬とともに暮らしています。バグの龍馬、ミニチュアダックスの空、フレンチブルドッグの佐助。

以前飼っていたフレンチブルドッグは、ヘルニアの後遺症で下半身麻痺でした。朝晩と導尿し、散歩は車椅子。下半身をひきずるので皮膚トラブルもしょっちゅうで、世話のやける子でした。なのに、亡くなってしまうと寂しくて…。1年くらいすると家族みんなでペットショップを巡るようになり、運命の出会い(?)を経て、今度は3匹も飼うことになってしまったのです。

ちょうどその時期に時短からフルタイムに戻った仕事と、家事育児だけで精一杯の毎日で、なんでわざわざ犬まで…と自分でも思いました。でも、やっぱり楽しいのです。思春期、反抗期を迎えつつあり、親には話せないことが増えてきた息子たちにとっては、黙って話を聞いてくれる癒しの存在になっているようです。そしてウチは、子どもも犬も全員男の子!

明るくてちょっとおバカな男子たちと、これからも楽しく過ごしていけたらと思っています。次回は、あさしお園OT木村基さんです。お楽しみに!

感謝 大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます (R2.10～R2.12)

一般寄付金

月	寄付者(敬称略)	
10月分	フェニックス家族の会様(クリスマス会の為)	本園
11月分	匿名 1名 様	
12月分	(株)万代 様 (クリスマスプレゼント) 第34回日本脳性麻痺研究大会様 鈴木 蒼 様	
10月分	共同募金寄付金(港区社会福祉協議会)	あさしお園
12月分	細井 雅之 様	ゆうなぎ園

寄付物品

寄付者(敬称略)	物品名	
本園	10月分 匿名 名 匿名 名 匿名 名 匿名 名	おもちゃ おもちゃ ラミネート 衣類・本・おもちゃ ハンカチ・タオル
	11月分 大塚 大輔 灰田 悠那 匿名 名	マスク 保護帽 ギブス防水カバー
		12月分 匿名 名 匿名 名
	10月分 梅津 由香	絵本 おもちゃ

令和2年 院内学会・清水賞

院内学会	最優秀賞	優秀賞	優秀賞	清水賞	奨励賞
	スタッフのコスト管理に対する意識を高め、算定漏れを減少させる試み ～学習会前後での算定漏れの変化～	問題行動を起こす障がい者に寄り添う訪問看護 ～人工呼吸器を導入し新たな生活を始めたA氏への支援から～	家族と保育の繋がりの大切さ ～コロナ禍での児童発達支援センターふたばの取り組み～	突然の心肺停止で重度低酸素性虚血性脳症となった脊髄性筋萎縮児への支援	上肢痙縮に対する体外衝撃波の試験的取り組み
	看護部わかば病棟 中山 美里、益子 由美、梶原 綾	訪問看護ステーションめぐみ 今川 香織、熊田 綾	療育部ふたば 田坂 直子 リハビリテーション部 高崎 睦	看護部 水野 真有、久保田 裕美、中山 昌美	リハビリテーション部 米持 喬

職員研修実施状況 令和2年10月～12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和2年10月27日(火) 17:40～18:40	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「ノロウイルス対策について」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	130名	5階ホール他
令和2年11月13日(金) 17:40～18:40	セイフティマネジメント委員会 教育研修部	医療安全研修「私から始めるセイフティマネジメント」	医務部小児科医長 飯島禎貴	121名	5階ホール他

院内学会 実施日時:令和2年12月28日(月)13:30～17:00 企画部署:教育研修部 参加人数:211名 場所:5階ホール他

研修名	講師
演題発表 「家族と保育の繋がりの大切さ ～コロナ禍での児童発達支援センターふたばの取り組み～」 「ウィズコロナから考える」 「コロナ禍におけるリハビリテーション部の取り組み」	療育部ふたば 田坂なお子 リハビリテーション部 高崎 睦 あさしお園 三好愛恵 出口奈和 リハビリテーション部 佐藤邦洋
スタッフのコスト管理に対する意識を高め、算定漏れを減少させる試み ～学習会前後での算定漏れの変化～	看護部わかば病棟 中山美里 益子由美 梶原綾
「呼吸器毎の吸入酸素濃度の違い」 「問題行動を起こす障がい者に寄り添う訪問看護 ～人工呼吸器を導入し新たな生活を始めたA氏への支援から～」	医療技術部臨床工学科 西岡孝洋 訪問看護ステーションめぐみ 今川香織 熊田綾
報告「3F病棟での非結核性抗酸菌症の院内感染事例の報告」 創立50周年アンケート結果発表	副院長 竹本 潔 看護部長 中山昌美他



大阪発達総合療育センター | 発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
URL : <http://osaka-drc.jp>
発行責任者・鈴木恒彦

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134